

〈書 評〉

上田 敏 監訳

末梢神経の診かた

写真でみる診断マニュアル

大井淑雄（自治医大整形外科・リハビリテーションセンター）

リハビリテーション医学，整形外科科学，神経内科学において，末梢神経系の機能障害の評価は重要な項目であり，それに関する教科書，マニュアルの類いは数多く出版されている。本書は，もともと，1940年，戦時下において末梢神経損傷の患者に対し，末梢神経損傷センターを設立した George Riddoch 博士と Learmonth 教授が，そこでの経験上，一般病院の整形外科医に対し，末梢神経損傷の図解入り手引書の必要性を感じ Russel 博士，McArdle 博士の協力を得て作った手引書であり，30

年にわたって版を重ねたものである。

「末梢神経の診かた」との題名であるが，具体的には筋力評価の方法と知覚系の評価の手引書となっている。この類いの書物は数多いが，本書は最もシンプルであり，かつ要領を得たものである。各々の末梢神経ごとに近位から支配筋を解説し，整然と配列している。筋力評価方法は写真で示され，適切な角度で撮影されている。写真のコントラスト，シャープネスともに良好であり，目的となる筋の隆起も明瞭である。ただ「訳者

まえがき」にも記載されている如く，筋力評価の方法はあくまで簡便法である。しかし，短時間にて，体位も上肢はすべて坐位であり，下肢もすべて臥位である点も実戦的である。写真も筋力にて診るべき部位に矢印がついておりわかりやすい。正中神経，尺骨神経，橈骨神経等の知覚系の評価では，感覚障害域の平均的範囲，最大，最小範囲が示されていること，触覚障害域，痛覚障害が記載されていることに，興味を持たれた。

入門用にも，また正確な記憶のもとに末梢神経系の評価をするためにも，実用的な手引書であると思われた。

(B5，64頁，¥1,200，1987.7月，医学書院サウンダース刊)